

上田 よしお 市政報告



発行者:上田よしお後援会・上田よしお市政相談所 住所:茨木市玉瀬町7番9号 TEL/FAX:072-635-4978 E-mail:u_yoshio2005@yahoo.co.jp

ご挨拶

盛夏のみぎり、皆様にはお変わりなくご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は私、上田よしお(嘉夫)にご指導ご鞭撻を賜り、心より厚く御礼申し上げます。さて、3月11日に発生いたしました東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。東日本大震災で亡くなられた方々に対し心より哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈りします。また、被災地で肉体的にも精神的にも辛く厳しい生活を強いられられている方々、福島第一原子力発電所で作業にあたられている方々、そして多くの方々に対しお見舞いと励ましの応援を送りたいと思います。

震災から5ヶ月が過ぎようとしております。政府は復興に向けた対策を与野党とともに協力し、1日も早い復興に全力を上げて取り組んでいただきたいと思います。政府の対策を見ておきますと、国の果たさなければならぬ事が分かってきているのか、日本の先行きが不安でならない、そのような声が多く出ており、先行きが未だに見えない状況であります。とにかく今は日本中が一丸となって、被災地の経済復興、そして被災者の方々の生活再建に向けた政策を進めていかなければならないと思います。そして、いつ私たちのところにも災難が起きるか分かりません。その時、一人ひとりが冷静かつ正しい行動にでられるよう、地域が協力し大規模災害に備えた準備をしていきたいと考えています。

茨木市は東日本大震災に対し支援の輪を広げ募金活動をしています。7月21日現在でその総額が約1億千6615万円集まり、日本赤十字社を通じて被災者に順次届けています。今後も皆様とともに東日本大震災の被災者のために私も出来る限りの支援してまいります。茨木市政に対しても東日本大震災・阪神あわじ大震災からの教訓を得て、防災力の向上と改めて「安全・安心な街づくり」に力を注いでまいりますので皆様のご理解とご協力をお願いいたします。最後にになりましたが、大変暑い夏となります。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

平成23年8月

茨木市議会議員 上田よしお(嘉夫)

市政報告会

市議会本会議終了後に毎回行っております、市政報告会の第21回目を3月26日(土)に行いました。議会報告に合わせ、前衆議院議員原田けんじ氏をお招きし、市・国政の報告と、府議会議員選挙について大変有意義な意見交換をさせていただきました。また、第22回目を6月25日(土)に行い、市政報告とともに、つばさ高校の東日本大震災に対する支援活動および気仙沼高校の生徒との交流の内容の発表と、大阪へのホームステイの協力依頼をさせていただきました。また、茨木市都市計画部まちづくり支援課より住まいの耐震化について講演と質疑応答を行いました。市政報告会です。ご要望は出来る限り市政に反映させてまいりたいと考えておりますので、どうぞ皆様、上田よしおの市政報告会にご参加いただきご意見をお寄せください。



第21回 市政報告会



第22回 市政報告会

次回

第23回目は9月本会議終了後の9月24日(土)第24回目は12月本会議終了後の12月24日(土)いずれも14時より1時間半程度水尾コミュニティセンターで予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

安心ついでに喜べるまちに (公民館での地域の相談窓口開設)

本市では7月から「地域福祉ネットワーク」モデル事業を実施しています。この事業は小学校区単位で取り組み、今年度は沢池小学校区と西小学校区がモデル地域として実施しました。事業内容は生活や介護など様々な問題を抱えている方が、市役所まで行かなくても身近な場所で気軽に相談できる環境を作りたいとの考えで、相談場所を地域の公民館やコミュニティセンターなどとしています。地域福祉ネットワーク事業は地域全体の連携で支援をしていこうというもので総合相談窓口を開設し、地域の民生委員・児童委員が、相談者のニーズに合わせてそれぞれの公的機関につなげる役割を地域の皆さんの問題解決のための支援を行うネットワークをつくりま

す。そのためによりよい市民サービスとは何か、相談を受ける方々の問題や相談者の問題をひとつひとつ解決をしながら行政は市民サービス向上にしっかり取り組まなければと考えています。現在は沢池・西小学校の2校区をモデル地区として実施し、結果がよければ全小学校区での実施を予定しています。

自殺者数毎年30,000人以上

13年連続30,000人以上の方が自らの命を絶っています。H23年3月発表 警察庁統計資料より、平成22年度の自殺者の最も多い内容は健康問題が48%で次に経済・生活問題22%、家庭問題が13%となっており、また、自殺者の70%以上が男性です。男性の方が自殺しやすい原因として、失業などの勤務問題が大きな割合をしめており、また、男性のほうが女性より自分のことを他人に相談しにくい事なども原因といわれています。

様々な問題を抱えて生きていかなければならない時代、交通事故で亡くなる方の約7倍近い方が自ら命を絶たなければならぬ日本の現状について深く考えさせられます。今年度は東日本大震災の影響を受け様々な形で私達の生活を脅かすことがあるかも知れません。

自衛隊の活躍と認識について

5月20日に自衛隊茨木協会の総会に参加させていただいた折に拝読しました、4月2日・産経新聞掲載の自衛隊の活躍の記事を紹介いたします。産経抄で「不幸中の幸い、などと軽く言うにはあまりに重大な災いである。だがこの大震災で国民が学んだことのひとつは自衛隊の存在の大きさだろう。発生以来、陸海空から10万7千もの自衛隊が動員され、人命救助や被災者支援などにあたってきた。救助した人の数は1万9千人あまりに上る。原発事故で真っ先に放水など危険な作業に取り組んだのも自衛隊員だった。その献身的な奮闘がなければ、被害は何十倍も大きくなっていただろう。隊員はもとより、彼らを育てた指導官らの努力には頭を下げるしかない。ところが、その必死の活動が続いている最中に公表された中学校教科書の検定結果には驚いた。いまだに自衛隊を「憲法違反」であるかのようないふたりの教科書があったからだ。「武器を持たない」というのが日本国憲法の立場ではなかったのかという意見もある」という記述も見られた。自衛隊を日陰者扱いするこころした教育は昭和30年代から40年代ごろ、日教組などの教師たちの「得意義」だった。その結果多くの子ども達が「自衛隊は違憲」と刷り込まれたまま社会に出て

(裏面へ)

行った。かの教科書記述もその時代の教育の残滓のようなものだろうか。いやそんな生やさしいものではない。大震災後、官房副長官として首相官邸に戻った仙石由人氏など自衛隊を「暴力装置」と呼んだ。国や国民を守る尊い使命をそうとしか捉えられない戦後教育の欠陥は政権の中枢にまで及んでいるのである。そんな管直人政権が震災支援の大部分を自衛隊に頼らざるを得なかったのは、皮肉だ。だがそれより、自衛隊に救われた子どもたちがそんな教科書を読んで、どんな思いにかられることだろう。胸が痛む気がする。」この記事を読み、有事の際には自衛隊が先頭になって人の生命と財産を守り国を守る使命を果たす働きに感謝しなければならぬ事を、改めて感じました。

高校生のかけがえないボランティアと被災地高校生との交流

茨木市玉島台の府立・北摂つばさ高校の生徒29人を含む40名の一行が、5月のゴールデンウィーク中に東日本大震災の被害が大きかった気仙沼へボランティアに行かれたことはテレビでも放送されご存知の方も多い事と思います。その気仙沼でのボランティアを通して同じ世代の人との友情が芽生え、何かに生かしたい、何かしなければ、そんな思いがつばさ高校生から生まれ、もう一度あの人たちに会って励まし共通の話題を作りたい、その一念がこのたび気仙沼の高校生を大阪に、そして茨木に迎えることになりました。8月3日から8月7日の日程で茨木でホームステイをしながら交流をはかります。これらの資金はつばさ高校生が茨木駅前街頭で義捐金募集活動で集めた費用を充てるそうです。

高校生たちの、何かしなければいけないという支援の意識が大きくなり、今回のすばらしい活動が実現できたことと思います。彼らの活動に際し、多くの方がご支援及び義捐金を差し伸べていただいたことに大変感謝するとともに、1日も早く先行きが見える復興施策を政府は出さなければいけません。



ハッピー商品券今年も即完売

今年も市民の皆さんの消費意欲を高め、本市の産業振興と地域経済の活性化を図るために、市内加盟店で使用できるプレミアム商品券（ハッピー商品券）を7月10日に販売したところ、各販売店とも発売日に発売所前に行列ができたほどの場所において1時間で完売したとのことです。このような事業を行うことは市内の活性化を図るとともに市民相互のコミュニティ（話題性）にも繋がるものと思えます。購入された人は必ず市内でご利用をしてください。今後もこの事業は継続していくものと思えますが、私は中心市街地の商店は閑散となっている状況から、ハッピー商品券の使用店舗と発行数も増やして、もっと個人店舗のにぎわいを取り戻すよう市は努力しなければと思っています。ちなみに発行数は以下のとおりですが、私はこの10倍くらいの発行数で取扱店についても工夫をする必要性を考えています。市内中小企業者への支援を市はもっと積極的に行わなければならないと考えております。

今回の発行総額 3.3億円

発行冊数 30,000冊

(500円×22枚綴り)

発行価格 10,000円

(額面 11,000円)

でプレミアム分の3,000万円を茨木市が全額負担しています。



犬ふん「イエローカード」作戦

市は昨年度から犬のふん対策「イエローカード作戦」を実施いたしました。「イエローカード」は放置されているふんを見つけたらその横にカードを設置することにより、常習的にペットの糞尿を放置する飼い主にマナーの向上を訴え、環境美化の推進をはかります。

また公園の砂場は幼児や子ども遊び場所となっており、時には砂を口にすることから、公園の砂場で犬猫のふんは絶対やめて下さい。今年も引続き市は普及に努めていますので「イエローカード」でのペットのマナー向上にご協力下さい。



イエローカード

立命館大学の各部決定!!

サッポロビール工場跡地に立命館大学が出来ることは昨年11月に発表されました。詳細についての全容はまだ発表されませんが、校地の拡張を望まれ市と協議を重ねています。開発と併せ学部の内容も明かされてきました。学生数は約10,000人で学部は経営学部と総合政策学部がほぼ決定で、他に教育学部の移転が検討されているようです。私は今後も立命館大学の動向には注視しながら茨木の町が若者で活気あふれ、環境の整った街になるよう意見を述べてまいります。又市民の皆様も意見をお寄せください。



現在の立命館建設予定地の写真
平成23年7月29日現在

フジテック跡地に隣接の新駅設置決定

JRは7月29日に茨木市とJR及びデベロッパー間で、茨木と摂津富田間（フジテック跡地）に新駅を設置する基本協定を結びました。新駅設置により、安威川東部地域にとっては阪急総持寺駅との交通拠点として今後の発展が大きく望まれます。現在、阪急総持寺駅から国道171号線を通る府道総持寺停車場線とJRとの交差する箇所は大型バスの通行が出来ません。JR新駅と合わせて道路の改修を行う予定と聞いており、この周辺の環境は大きく変わるものと期待できます。新駅設置にかかる費用の負担割合は、JR1/2、国1/4、茨木市1/4の割合となる予定です。この新駅は多くの利益が見込めることから、JRの負担割合が1/2となっており、（通常、JR・市・国と同一の負担割合になることが多いです）又駅前周辺の開発にも大きく寄与するものであり阪急総持寺駅とのアクセス整備も同時に行わなければならないと見られます。市は立命館大学の誘致開発と併せ駅前開発に全力で取り組んで行くものと思えます。



JR新駅予定地（フジテック跡地）
平成23年7月29日現在

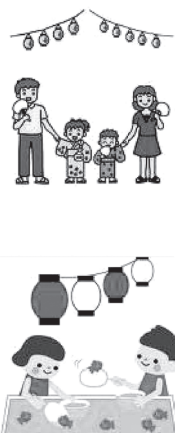
今年の夏祭りについて

例年この時期夏祭りが各地で行われますが、今年少し様子が違います。例年、市内の殆どの小学校で夏祭りが行われていますが、今年は小学校の耐震工事のため多くの夏祭りが取りやめになりました。毎年楽しみにしている子ども達の夏祭り、またふるさと祭りは地域の代表的な祭り事で、運営する方、参加する方がお互いに楽しみ合える地域の行事として親しまれてきました。

南地域では殆どの小学校校区の夏祭りが今年中止されましたが、水尾小学校校区夏祭りは例年通り行われます。今年も東日本大震災の復興を念じて行われるようです。祭事はその地域の無病息災を願われ行われますが、それと同時に子ども達の思い出作りとして盛大な夏祭りになるよう祈念してまいります。

◎盆踊りの起源について（百科事典より）

盆踊りとは元々は仏教行事である。平安時代、空也上人によって始められた念仏踊りが、盂蘭盆の行事と結びつき、精霊を迎え、死者を供養するための行事という意識になっていったようである。室町時代の初めには、太鼓などをたたいて踊るようになったといわれている。現在も、初盆の供養を目的の盆踊りも地域によっては催されている。



今後の活動予定

市政報告会

第23回
9月24日(土) 午後2時～

第24回
12月24日(土) 午後2時～

<場所>

水尾コミュニティーセンターにおいて

報告会は自由なご参加とさせていただきます。

皆様のご参加をお待ちしています。